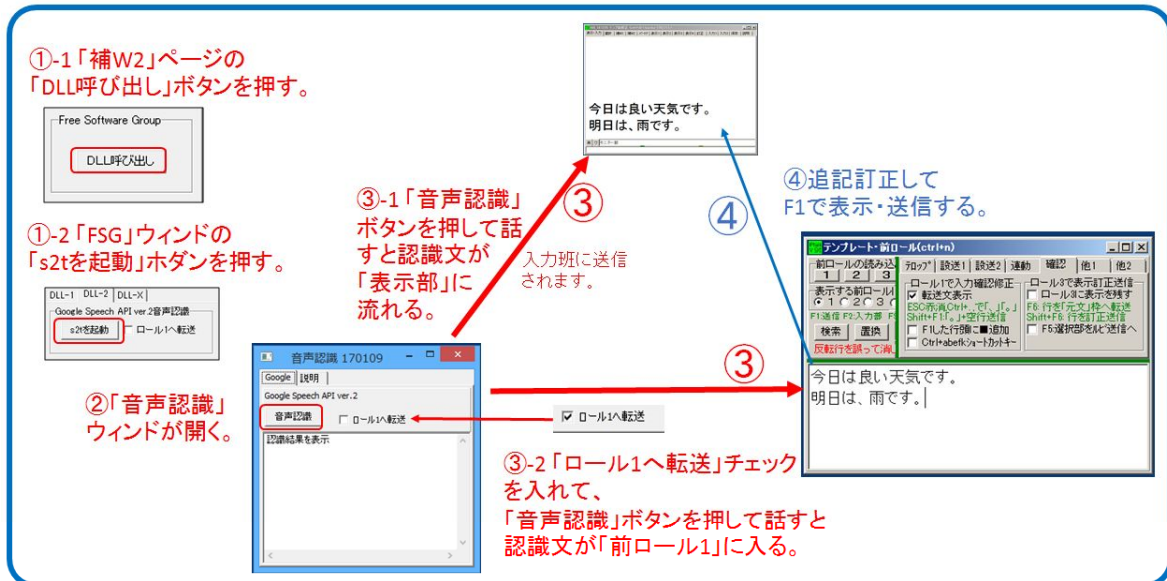


「音声認識」ウィンドの説明

【概要】

- ・音声認識を IPtalk だけで試すことができます。(Chrome ブラウザーやスマホは不要)
- ・Google の「Speech API ver.2」を使っていて、無料で利用できます。
- ・1 発話ごとにボタンを押す必要があったり、ダイアログが出たり、1 日 50 回までの制限とか、実際の入力に使用することは難しいのですが、音声認識のイメージ(自分の声の認識率や、表示の流れ方など)を試すことができます。

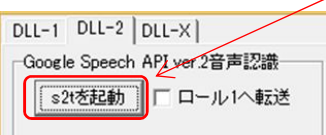

【操作の概要】



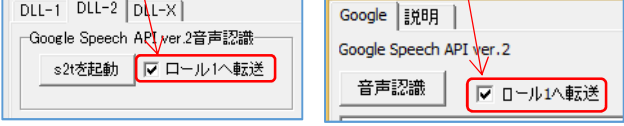

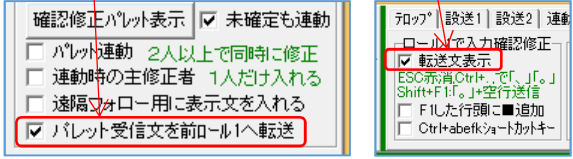
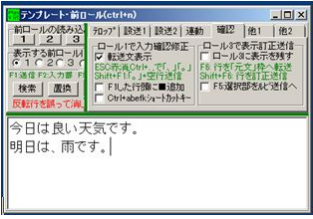


「補W2」ページの「DLL呼び出し」ボタンを押し、「FSG」ウィンドの「DLL-2」ページの「s2tを起動」ボタンを押すと、「音声認識」ウィンドが開きます。「音声認識」ボタンを押すと認識文が「表示部」や「ルール1」に入ります。

【簡単な試し方】

- ・パソコンはインターネットに接続している必要があります。

No	操作	反応
1	IPtalk9t66.exe を起動します。 【注意】 IPtalk のあるフォルダーに以下のファイルを置いてください。(同梱されているので解凍すれば、そのまま入ります。) ・dll_s2t.dll ・SpeechDialog.dll ・flac.exe	
2	①「補W2」ページの「DLL呼び出し」ボタンを押し、「FSG」ウィンドの「DLL-2」ページの「s2tを起動」ボタンを押す。 	①「音声認識」ウィンドが開きます。 

3	<p>①「音声認識」ボタンを押すと音声認識のダイアログが開くので、何か話します。</p> 	<p>①「認識中です。」と出て、表示部に認識文が流れます。(入力班にも送信します。)</p> 
4	<p>認識文を「ロール 1」に転送します。</p> <p>①「ロール 1 へ転送」チェックを入れます。「FSG」ウィンドに入れても、「音声認識」ウィンドに入れても、どちらかを入れれば両方入ります。</p> 	<p>①「テンプレート前ロール」ウィンドが表示されて「前ロール 1」を消去しますか?」と出るので「はい」を押します。</p>  <p>「テンプレート前ロール」の「転送文表示」チェックと「訂正」ページの「パレット受信文を前ロール 1 へ転送」チェックが自動的に入ります。</p> 
5	<p>①「音声認識ボタンを押し、何か話すと「前ロール 1」に認識文が入ります。</p>	<p>①認識文が「前ロール 1」に入るので、F1 で表示に流します。</p> 
おわり		

【ヒント】

・同じ IP アドレスに対して 1 日 50 回程度という使用回数制限があるようです。

【著作権表示】

・SpeechDialog.dll

風工房(<http://wind-craft.net/>)の山崎信久氏が作成した GoogleAPIKit の SpeechDialog.dll を使用しています。

『ライセンスは BSD 相当として「再配布する際に著作権表示を行うことのみを条件とする』』とのことです。

・flac.exe

風工房(<http://wind-craft.net/>)の山崎信久氏が作成した GoogleAPIKit の flac.exe を使用しています。

『<http://flac.sourceforge.net/>で公開されているコマンドラインソフトです。wav から flac にするのに使用しています。改変はしていませんが、BSD ライセンスになりますので「再配布する際に著作権表示を行うことのみを条件とする」となっています。』とのことです。